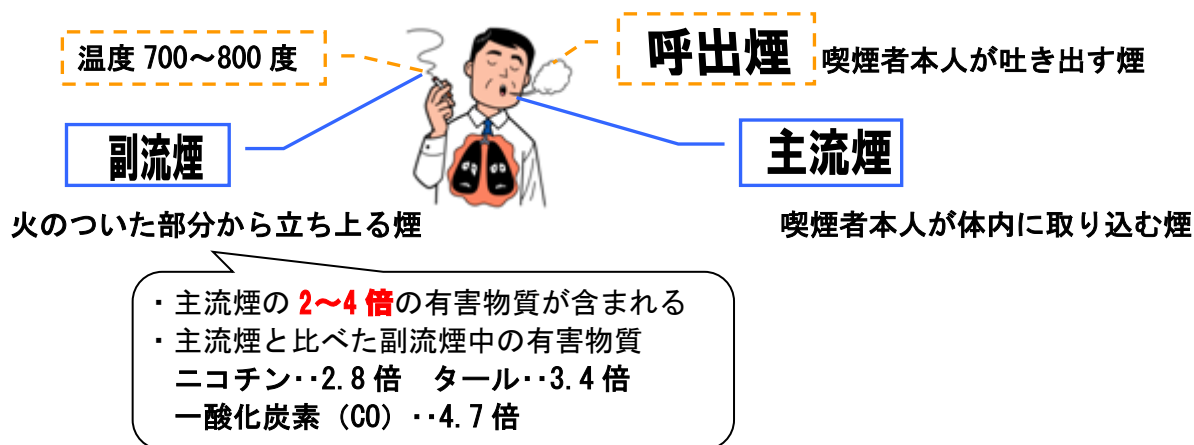


STOP! 受動喫煙

たばこを吸わない人が、いろいろな場所で自分の意思とは関係なくたばこの煙を吸わされることを「受動喫煙」といいます。受動喫煙は、たばこを吸わない人にとって不快と感じられるだけでなく、さまざまな健康被害を及ぼします。

◆有害物質が多い副流煙

たばこを吸う人がたばこ自体やフィルターを通して吸い込む煙（主流煙）よりも、火がついている部分から立ち上がる煙（副流煙）の方が有害物質の濃度は高く、喫煙者の周囲の人たちに様々な健康被害を与えています。



◆受動喫煙の悪影響

●肺がんリスクが大！

1日に20本以上のたばこを吸う夫を持つ妻は、吸わない夫を持つ妻に比べ、肺腺がんになる危険が約2倍になります(右図)。

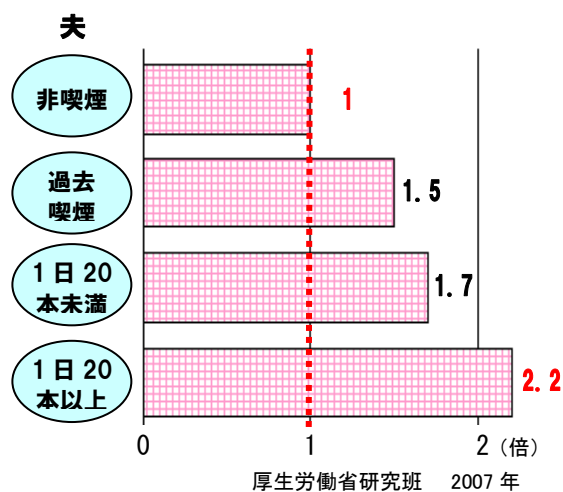


75 歳女性非喫煙者



65 歳女性非喫煙者

<夫の喫煙の有無による妻の肺の状態>

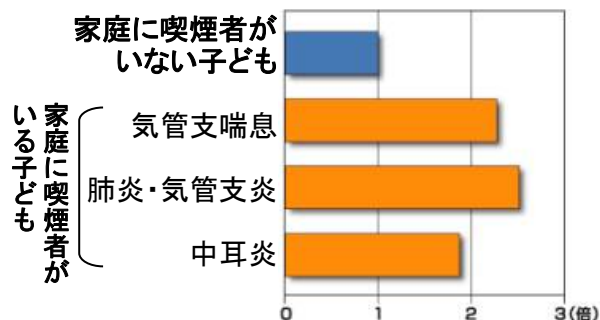


<夫の喫煙の有無による妻の肺腺がんリスク>

●呼吸器系疾患のリスクが大！

日常的に受動喫煙にさらされている子どもは、気管支炎や肺炎にかかりやすく、気管支喘息などを起こす危険が高くなります。

* その他、脳腫瘍、骨髄性白血病、リンパ腫、注意欠陥多動性障害 (ADHD) など喫煙と関係があると報告されています。



* California Environmental Protection Agency, 1997

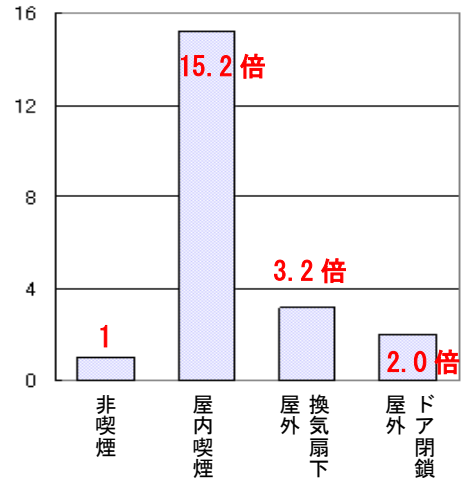
** Adair-Bischoff CE, et al.: Arch Pediatr Adolesc Med, 1998

<喫煙者の有無による子どもへの影響>

●換気扇下やドアの閉鎖では受動喫煙は防げない！

両親が喫煙しない家庭の子どもの尿に含まれるニコチン量を「1」とすると、屋内で自由に喫煙している家庭の子どもの尿中ニコチンは**15.2倍**と最も高くなります。またドアを閉めて屋外で吸ったり換気扇の下で吸ったりしても完全に受動喫煙は防ぐことはできません。

(Johansson A, et al. Pediatrics 113:291,2004.)

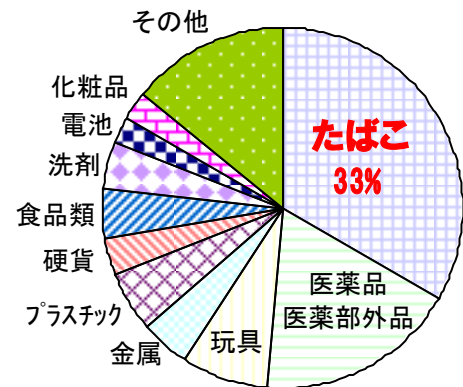


●たばこの誤飲・誤食の危険性

誤飲・誤食事故は、1歳前後の乳幼児に特に多く、その誤食の原因物質の**第1位**は毎年**たばこ**です。

ニコチンの致死量は、乳幼児で**10~20mg**、これは紙巻たばこ1本分に相当。また、バケツや灰皿等の水に浸っていたたばこやその液には、ニコチンが溶け出していて吸収されやすく少量でも危険です。誤飲した場合、30分~4時間以内

(たばこが浸っていた液体を誤飲した場合は15分以内)に吐き気、めまい、顔面蒼白などを訴えます。



<H20年度 家庭用品等に係る健康被害病院モニター報告>

子どもの手の届くところに**灰皿や灰皿** 代わりに**空き缶**は置かないように！



《大気汚染物質 PM_{2.5} と受動喫煙環境を比べると…》

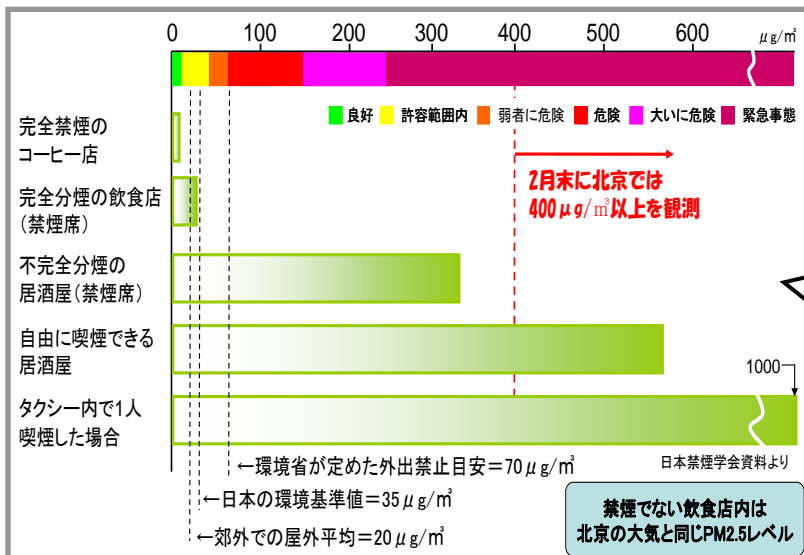
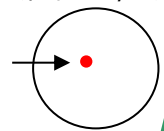
PM_{2.5} とは…『空気に含まれる直径が千分の2.5ミリ未満の微小粒子のこと』

物が燃えることによって発生し、**たばこの煙にも** たくさん含まれています (副流煙にも多い)。

Q 大きさは？

毛髪断面 (直径 70 μm)

PM_{2.5} (2.5 μm)



自由に喫煙できる居酒屋や車内喫煙等は、今年の2月末の北京の大気 (400 μg/m³ 以上) より高いPM_{2.5}レベル